

稲美町教育委員会議事録

- 1 開催日時 令和7年8月28日(木) 開会 15時00分
閉会 17時15分
- 2 開催場所 稲美町役場303会議室

3 会議に付した事項

日程第1 諸報告

- (1) 行事・経過報告について
(2) 8月・9月の行事予定について

日程第2 議案

議案第9号 令和7年度9月補正予算に係る意見について

日程第3 協議

- (1) 令和7年度全国学力・学習状況調査について(別冊)
(2) 部活動の地域展開について(別冊)

日程第4 その他

- (1) 7月分問題行動件数について
(2) 令和7年度 第2回稲美町社会教育委員会の報告について
(3) 令和7年度 第1回稲美町学校・家庭・地域の連携協力推進委員会の報告について
(4) 第1回文化会館運営審議会の報告について
(5) 令和7年度 第1回 稲美町幼児期と児童期の円滑な接続推進委員会の報告について
(6) 第1回稲美町教育振興基本計画点検評価委員会の報告について
(7) 第2回稲美町教育振興基本計画点検評価委員会の報告について
(8) 総務福祉文教常任委員会の報告について(総務福祉文教常任委員会資料参照)

4 出席委員

教 育 長	北 谷 錦 也
委 員	後 藤 哲 夫
委 員	本 多 澄 子
委 員	高 田 道 夫
委 員	松 田 緑

5 出席職員

教育政策部長 井 上 勝 詞

生涯学習担当部長	沼 田 弘
教 育 課 長	稲 葉 寛
学校教育担当課長	加 藤 彰 一
管 理 担 当 課 長	前 田 浩 二
人 権 教 育 課 長	松 尾 恵 宏
生 涯 学 習 課 長	赤 松 嘉 彦
スポーツ担当課長	中 澤 秀 俊
文 化 の 森 課 長	西 本 竜 也

6 開 会

教育長

委員の皆さまにおかれましては、お忙しい中ご出席をたまわり、誠にありがとうございます。

本日の会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定により定足数に達しております。よって、会議が成立していますので、ここに開会いたします。

本日の議事日程は、お手元に配付いたしております。

会議の傍聴についてですが、傍聴される方はいらっしゃいません。

次は、議事録の承認です。7月の定例会議事録をお手元に配付いたしておりますが、これを承認いただけますか。

各委員

異議なし。

教育長

異議なしのお声をいただきましたので、議事録は承認されました。

次は、議事録署名委員の指名であります。議事録署名委員は、稲美町教育委員会会議規則第16条第2項の規定により、教育長から指名いたします。8月分を松田緑委員にお願いします。

続きまして、私から、日程第1、諸報告ですが、別紙資料の通りです。

それでは、次に、各課から行事予定について報告をお願いします。

教育課 (報告内容省略)

人権教育課 (報告内容省略)

生涯学習課 (報告内容省略)

文化の森課 (報告内容省略)

教育長

各課の報告について、何かご意見があればお願いします。

後藤委員

教育課の8月21日から22日に県教育委員会連合会夏季研修会ですが、子どもの発達科学研究所からの話がありました。その中で、学校の風土を変えていく、向上させていく、学校の風土

をターゲットにした研究が進んでいるということで、内容が報告されていて、面白いなと思いました。私たちも隔年、学校に参観させてもらった時に、パッと入った時の教室の雰囲気とか、学校全体の醸し出す明るさとか、子どもたちのイキイキした活動の度合いとか、そういったことを感じることはあるのですが、学校が子どもたちや先生方と一緒にになって醸し出すムードを科学的に捉えて、そしてそれを向上させるにはどうしたら良いかの案も進んでいるようで、実際に稲美町の各学校でも、それに似たような取組はされていると思います。子どもたちに1年間の振り返りをしてどうだったかということを知ったり、先生方もいろいろなチェック項目をつけて、先生方がすべての学校の取組をどう感じておられるかをお互いに知るという、それで1年間こういうことを注意していこうというような取り組みをそれぞれの学校はされていると思います。子どもの発達科学研究所は、それを科学的に、より客観的に見られるというものが出来つつある。こういったものを取り入れて、1度自分たちの学校を客観的に見てみようということも有効ではないかと思います。学校全体が良い方に変わっていくためには、みんながその方向に向かって、納得をして進んでいかなければいけないわけですが、科学的なものだとお互い納得しやすい、共通認識として持ちやすい。また、保護者の方や地域の方に対しても、こういうことに取り組みますというような説明にも説得力がある。そういうことが研究所などで進んでいるということを知りましたので、校長会とかそういったところで、もし学校がやってみようということになりましたら、こういったことがありますよとお話しても良いのかなと思いました。

本多委員

文化の森課のふれあい交流館のところのフリースペースの開設で、利用者数がわかれば教えてくださいませんか。

西本課長

8月10日から24日の13日間で、実際に受付で記入をしていない子どもたちもいたようで、延べ50人ぐらいかなというところですよ。1日に平均で3人から4人ぐらいの子どもたちが来ており、中学生や高校生の子どもたちが利用していました。

教育長

他のフリースペースの利用者数の人数はわかりますか。

加藤課長

コミセンの4階は、20名ぐらいの生徒が利用しています。

他の各隣保館も、同じように20名程度と聞いております。

図書館の利用者は記入をせずに利用されており、人数は把握しておりません。

教育長

次は、日程第2、議案第9号「令和7年度9月補正予算に係る意見について」を議題といたします。事務局から提案理由の説明を求めます。

井上部長 (説明内容省略)

沼田部長 (説明内容省略)

教育長

このことについて、何かご意見はございませんか。

ご意見がないようですので、これより採決に入ります。議案第9号は、原案のとおり承認することにご異議ございませんか。

各委員

異議なし。

教育長

ご異議なしと認めます。よって、本案は、原案のとおり承認されました。

次は、日程第3、協議(1)「令和7年度全国学力・学習状況調査について」事務局から説明願います。

加藤課長 (説明内容省略)

教育長

このことについて、何かご意見はございませんか。

高田委員

11ページの真ん中で、稲美町中学校3年生の高い項目ということで、下から3つ目、「国語の勉強は得意ですか。」という質問に対して、得意という回答が高いというのはその通りと答えた方が多いということですね。

やや低い項目、下から3つ目、「国語の勉強は好きですか。」微妙な聞き方というかよく見たら、「数学の授業は好きですか。」という質問はないんです。

ではこの国語の勉強はというと、得意だけれど勉強はあまり好きではないという、これはどういうことか。授業のことかなとか、そういうふうに推測してしまう。そこで何を思い出したかというと、授業参観のときに、もうそれは小学校だったか中学校だったか忘れてしまいましたが、例えば英語とかそういう活気が出るような授業に比べて国語というのは、「それは何を指していますか」とか、なかなか活気が出にくい科目だと思うんです。そこら辺のシーンとした時間が過ぎていくことは、特に国語の先生は、ここら辺の微妙なところを考察されて、授業に生かしていただけたらと思います。

教育長

これは全体的な子どもたちのアンケート結果、12ページには、いろんなこのテストの結果、正答率との関係を見たりしていますが、それぞれの学校にまた分析をしていただきますので、今委員が言いましたように、言い方は悪いけど、国語の勉強はあまり好きではないけど得意です。この得意というのは、点数が取れるだけのことなのかということですよ。あるいは国語の勉強が好きか嫌いかと聞かれると好きではない。それは学習なのか、それとも委員が言われるように、その先生との相性とか、そのあたりは、それぞれの学校の状況、国語の先生方が、それを分析する中で、それぞれ課題が見えてくると思います。これをもとに、近々校長会もありますので、こんな質問もありましたよと紹介しながら、それぞれの学校の課題とこれからの対策について考えていただくようにしたいと思います。

加藤課長

国語の学習の授業の中で自分たちの考えを述べるとか、決まった答えのない中で、自分たちの意見を発言できるというのは、得意というところにも入ってくるのではないかと考えております。

ただ国語の勉強が好きかという中で、やはり答えのないものを、自分の考えを表していくという部分では、ちょっと難しすぎる部分なのかなと、私はこの生活質問紙を分析しながら感じたところでございます。

教育長

またゆっくりと分析等も見ていただき、また各学校、小学校、中学校においても、分析をしていただいております。近々それぞれの学校のホームページに、各学校の分析結果が上がりますので、そういうのも、もし機会がありましたら見ていただいて、今後、この定例教育委員会の中でも、気づかれたこと、ご提案いただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

後藤委員

私はこの報告を受けて一安心という思いをしているのが、2ページの中学校のまとめのところで、「人の役に立つ人間になりたい」「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童生徒の割合はいずれも全国平均を上回り、昨年度からさらに高くなっているということ。下の3段目のところ、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」とか、「地域の大人との関わる機会がある」ということ。地域との力を得ながら、学校運営していくというそういう方法の中で、子どもたちがこういう良い経験ができています。非常に今の教育環境の雰囲気というのは、健全さを維持し、向上しつつあると捉えてもいいのではないかと思います。

教育長

次は、(2)「部活動の地域展開について」事務局から説明願います。

加藤課長 (説明内容省略)

教育長

このことについて、何かご意見はございませんか。

高田委員

14ページ、最後に教育委員会の関わり、この資料全体を私も初めて見て、素晴らしいと思いました。よくぞここまで考えられたなと思っております。さらに、教育委員会との関わりということで、具体的に指導するとか、監督するとかそういうことが書いてあるのですが、これは確認なのですが、費用的な側面、補助金を出すとか、全部を持つといったら今までと全く変わらないわけですから、当然その独立した団体、NPO 法人もあるだろうし、あるいは任意団体もあるだろうし、いろんな団体があるわけですが、その辺りお金の関わりはどのようになっているのでしょうか。

加藤課長

金銭的に各地域クラブへの補助に関しましては、現在のところ課題であると考えております。高田委員のおっしゃるようにまだ明確な答えを持ち合わせていないのですが、検討していかなければならないと考えております。

高田委員

何でこんな質問をしたかと言いますと、私、NPO 法人の事務局をやっていて、会計関係のこともやっていたんです。かなり大変でしたので、その団体がきちんとしていけばきちんとした会計担当のスタッフの人がいないといけません。そのあたりは大変だなと思い、だから、ここに

ろいろ運営安全管理助成制度などに関する相談について、窓口を設置しますと書いてありますので、せっかく素晴らしい「いなチャレ」ということですから、その団体が上手くやっていけるように、ご指導をしていただけたらと思います。

加藤課長

これを受けましてまず、来年度からいろんな実証も進めていって、実際にどういうものが必要なのかですとか、どういう要望があるのかというのを整えていきながら、令和10年の本格実施に向けて、準備を進めていきたいと考えております。

教育長

県、国の方にも今質問があったように、財政的な支援が必要ではないかという要望を上げていますが、現在、国、県から具体的な財政支援についての方針が示されていないので、なかなか町の方も今、難しい状況だと思っています。ただご指摘のあった課題は、町としても捉えていますし、また運営してくれるクラブへの支援も必要ですけど、参加する生徒、ご家庭によっては様々な背景があり厳しい状況、今、学校での部活動ですと参加できていたけど、外になると参加は厳しいなということが起こっても、子どもたちの活動の選択をせばめてしまうことになりますので、子どもたち、ご家庭の支援も何か考えなければいけないというのは課題として捉えております。その辺りも、今、国の方の具体的な方針を示していただくのを要望しながら待っているような状況です。

後藤委員

13歳から15歳の体がどんどん一番人生で成長していく時に、どう体を鍛え、また、文化的なものを伸ばし、適性にあったものを選んで伸ばしていく期間が、多くのほとんどの生徒に満遍なく、行き渡っているというのは非常に大きな大事なことだと思います。ぜひ、金銭的な部分もうまく絡んで、地域の中で子どもたちが、見ましたら小学生も可能ということなので、異年齢の中でいいものが育っていくといいなと思います。ただ部活動をやってきた者としては、そういう時代が来るんだなという考えがございます。ぜひ、令和10年以降良い活動ができますように、よろしくお願いしたいと思います。

教育長

後藤委員や高田委員からもありましたように、事務局としてはスケジュールを示していますが、課題もまだたくさんあります。財政的な支援がどこまでできるのかという課題もありますが、また支援の方が見えてきたとしても、地域の皆さん、あるいは、子どもたち、保護者の皆さんの協力がなければ進めていけないことですので、一番の課題は、このスケジュール方針を多くの方にも知ってもらい。理解してもらいことだと思いますので、あわせて説明会等、まず、周知に努めていけたらと思っています。

後藤委員

細かいことですが、進めていくにあたって、小学生の理解といいますか、中学校になったら「いなチャレ」というのがあって、今までの部活動とは違ったものでやっていくんだということを小学校の中で、4年生、5年生あたりから、ぜひ、それに参加していくようにということで、小学校から時間をとっていただいて、パンフレットをもとに説明する機会を持ってやってほしいなと思います。今までだったら中学校に行ったら「部活動何するの」というのが、5年生、6年生で話題の一つで、部活動に参加する生徒も90%以上いたと思うのですが、ぜひ「いなチャレ」について小学生の段階からよくわかるように、そういう時間を持って、小学校の先生方から説明を

してあげてほしいなと思いました。

教育長

先日は町内の先生方に、説明会を開かせていただきましたが、子どもたちは、中学校に向けていろんな楽しみにしていることでもありますし、またそれが変わっていくということで不安の声をよく聞きます。これは保護者の方から聞きますので、特にこれから中学校に上がっていく、現在の小学生に対する説明というのは、非常に重要だと事務局の方も考えておりますので、これ以降は、まず、小学校の先生方への説明、それを経て、今度は子どもたちへの説明や、あるいは意見を聞くアンケート調査等を実施できたらと思っております。

本多委員

保護者の立場からなのですが、中学校の部活動も部費という形で徴収はありましたし、練習試合とか、大会だと送迎とか負担といえば負担なのですが、それがクラブチームとなると違いというか、クラブチームの場合は、全部ではないと思うのですが、当番制とか保護者の負担になるところもあると思いますが、負担が軽減するように考えていただけたらと思います。

加藤課長

保護者に関する負担軽減ということで、また教育委員会の方にも相談窓口を設置させていただいて、保護者の方からの相談も受けさせていただきたいと考えておりますので、そういった内容ももちろん聞き取らせていただきながら、対応はしていけないといけないと思っております。

またそのことに関して、その実施主体への指導という形で行うことができるように、文言もすでに入っておりますので、そういった部分を生かしながら、お互いが円滑に、活動できるように取り組んでいきたいと考えております。

教育長

今、事務局からありましたように、実際には相談窓口を教育委員会内の部署に設置しようと思っております。またそれだけではなくて、何かあったから相談を受けるのではなくて、こういうふうな活動にしてほしいというような指導者研修会を持っていきたいと思っておりますので、なかなかそれぞれのクラブというのは、自主的な運営の団体ですので、あまり「ああしろ。こうしろ。」ということは難しいと思いますが、ただ、活動の中で情報公開していただく、あるいはこちら側からももちろん思春期の成長期の子どもたちですので、その指導については、勉強もしてもらって、研修を受けてもらって、みんなで作っていく良い活動というのを意識しながら、研修会の計画をしていきたいと思っております。

先程言いましたがまだまだ始まったばかりですので、また見ていただいて、あるいは今後、地域の方からもお聞きになると思いますので、何か良い提案とかお気づきがありましたら、また、この定例教育委員会の中でも、教えていただけたらと思います。

次は、日程第4、その他(1)「7月分問題行動件数について」を事務局から説明願います。

加藤課長 (説明内容省略)

松尾課長 (説明内容省略)

教育長

このことについて、何かご意見はございませんか。

次は、(2)「令和7年度 第2回稲美町社会教育委員会の報告について」、(3)「令和7年度 第1回稲美町学校・家庭・地域の連携協力推進委員会の報告について」及び(4)「第1回文化会館運営審議会の報告について」を事務局から説明願います。

赤松課長 (説明内容省略)

西本課長 (説明内容省略)

教育長

このことについて、何かご意見はございませんか。

高田委員

質問ではないんですが、参考までにお話をしておこうと思います。16ページの真ん中の方、報告・連絡事項の(4)高砂市立図書館の話で、参加者との繋がりを大切に多くの事業を行っていた。たまたま私は友人に誘われて、この高砂市立図書館がやっている、たくさんやっているんですけど、そんなに私が伺っているわけではないので、その1つです。名誉館長講座というのが、年に10回か12回、月に1回ほど、歴史探訪というかそういうのをやっているのですが、それでその名誉館長というのは県の文化財の行政ばかりを長年やってこられて退職した私の同年代の方で、20人ぐらいのときもありますが30人ぐらいで、高砂の町の中の名所旧跡を回るのですが、それだけでしたらよくあることですが、その中で、よく参加する人たちを集めて、サポーターとして育成するというか、その人たちは、そういう詳しい説明をよく知っている人から話を聞くだけでなく、自分自身も、このお寺だったら、こういう話ができる。この港のこの部分だったら、こんな話ができる。そういう人はやっぱり7、8年ぐらいで、そういう話ができるようになっていて、それはやはり従来よくある普通のタイプと違って、稲美町もマネをする必要はないですが参考にして、偉い方の話を聞くだけでなく、自分ら自身がその町を人に伝えられるようにしようという心意気でしたので、紹介しております。

松田委員

16ページの4番の(1)なのですが、私も8月21日にこの場所で、人権の会議に出席させていただいて、そのときにも、この児童養護施設の方から、7人のお子さんを里親にされたというお話が出たんですが、私はこのお話をもう少し聞きたいなと思ひまして、このお話の内容が、何か冊子か何かになったというのを伺って、それを見せていただくことが可能なかどうか教えていただけたらと思います。

すごく素晴らしい方だと思うんですね。その方のご経験とか、引き受けようと思ったその経緯とか、そういうことも何か書かれているのであれば、もう少し詳しく知りたいなと思うんですが、その辺り教えていただけますか。

松尾課長

あたご大学で発表された原稿をお預かりしていますので、皆さんにお配りして読んでいただこうと思います。来月には、お渡しできるかと思います。

松田委員

18ページのコスモホールのことなんですが(2)のところ、コスモホールの空いているところを利用しようということで、ピアノを活用して、子どもたちに調律の様子を見せるというご提案な

んですが、すごく面白い企画になるのではないかなと思います。

私も小さい子にピアノを教えているのですが、ご家庭の状況で、私も教えている側からピアノを買ってくださいというのはなかなか言いにくくて、音の問題なんかがありますので電子ピアノの方がやっぱり多いんです。

ピアノは、一生もので電子ではなくて、本当のピアノのタッチというんですが、そういう手の動きのことがすごく重要なので、アップライトピアノでも購入してほしいなと思ったりもするのですが、ほとんどの方が電子ピアノの方が多いです。こういう調律となると、小さいお子さんは、特に男の子なんかは、ピアノを弾くよりも、ピアノの中身がすごく知りたくて、ペダルを踏んだら鍵盤が横に動くだとか、中に弦がいっぱい入っているとか、その中身がすごく知りたいというお子さんが、男の子に限らずに、中身はどうなっているんだろうという興味を持っているお子さんがすごく多いんですね。

アップライトピアノもいいのですが、コスモホールにあるグランドピアノというのは、やっぱり大きさもあって、中の構造も全然違うので、そういう中身が見れて音が変わっていくという体験はすごくいいかなと思います。ただ、調律の時間も人にはよりますし、ピアノのメーカーにもよるんですが、大体1時間半とか2時間かかる。すごく時間をかけて、一音一音すごく神経を研ぎ澄ましてされているような方は、丸1日ぐらいかけるような方がいるので、その辺を考えられて、いい部分を見ていただけたらいいのではないかなと思いますし、いい企画になっていくのではないかなと想像しました。

西本課長

1年に2回ぐらい調律する機会がありますので、その調律する方にもこういった企画ができないか相談してみたいと思います。

教育長

先ほど松田委員からもありましたけども、今年の各自治会のふれあい学習会の主に新しいDVDのテーマで、社会的養護をテーマに作られたDVDで、どうしても日本の場合は遅れている中で、児童養護施設はたくさん子どもを集めてというのが結構多かったんですが、やっぱり子どもたちの成長を考えると、家庭的な雰囲気の中でということで、この里親制度とか、あるいは養護施設も今年のDVDにあるように、小さく家庭的な小規模なところで進めていくことがなかなか理解が広まらないところがありますので、このような学習会をもとに、あるいは人権教育課からも、すぐ身近な方で、そういう取り組みをされているというのもありますので、また、いろんな地域の方へも紹介をしていただけたらと思います。

次は、(5)「令和7年度 第1回 稲美町幼児期と児童期の円滑な接続推進委員会の報告について」、(6)「第1回稲美町教育振興基本計画点検評価委員会の報告について」及び(7)「第2回稲美町教育振興基本計画点検評価委員会の報告について」を事務局から説明願います。

稲葉課長 (説明内容省略)

松尾課長 (説明内容省略)

教育長

このことについて、何かご意見はございませんか。

後藤委員

20ページ一番上のところ、＜C グループ（天満）＞天満小学校には、他市町を含む10以上の幼児教育施設から子どもが就学してくる。就学後、4・5月のカリキュラムとの間にギャップを感じ、戸惑う児童も少なくないとのことです。幼稚園とか保育園と小学校との縦の関係での繋がりをということで、接続推進ということをされている。非常に大事なことだと思います。

ちょっと最近知った情報の中では、ある東京都の小学校だと思うのですが、1年生の入学後が非常に難しい。新任の先生とか経験のない先生がそこで悩んでしまって、学級崩壊的なことが起こりがちである。最近の1年生も昔のようにと言ったらおかしいんですが、言うことを聞かない子が多いようです。クラス分けが偏って、あるクラスに非常に動き回る子とか、言うことを聞かない子がたくさんいると、とても大変なので、その学校がやったのが、1年生の4月だけ、一応仮の学級にする。4月の1ヶ月だけ、担当する学年の先生方で入れ代わり立ち代わり、基本的なことは変わらないようにして、子どもが困らないようにして、先生方が各クラスを少しずつ管理して回って行って、子どもたちの様子を見て、その中で、もう1回クラス編成をし直して、そして5月から正式なクラスを決めていく方向にしているという工夫を読みました。有り得るなと思いました。今、稲美町でそういう問題がなければそれでいいんですが、もし、この取組の可能性があるのであれば、天満小学校だと思うんです。多くの子どもたちがドッと入ってきたときにどうクラス分けをするか。小学1年生のクラス分けが、そういう工夫をして、それが結構うまくいって広がっているみたいです。もし、そういう状況があったら、そういう手もあるなど、何にも金銭的なものや何も変更しなくてよくて、ただその組織的に変えていったら良いだけなので、そういうクラス分けの方針もあるとお伝えします。

教育長

今、後藤委員から指摘があったようなことを、教育委員会事務局としても、やはり小学校の接続ということで、危惧するところがあって、この委員会を立ち上げることになりました。町内の保育園、こども園、幼稚園との連携ということではありますが、小学校との連携だけではなくて、幼稚園、保育園、こども園の横の連携もしていただいて、小学校では1年生を迎えたときの4月のカリキュラム、こんなことをやっていきたいというのを示してもらおう。幼稚園、保育園、こども園はそれを見て、小学校に向けて4月に向けて、幼稚園では、こんなことをやっていきましょうというのを、それを情報交換、意見交換しながら進めて行って、今のところ、スムーズに、ただ天満小学校の場合、幼稚園は、隣接しているけど、保育園、こども園が離れているのがあって、そこは町の方も協力して町のマイクロバスを出して、天満小学校との交流というか、体験もできるような取り組みを進めています。ただ、天満小学校の場合は、この町内の幼稚園、こども園、保育園だけではなくて他からも来られていて、今のところそれで大きなトラブルということは聞いてないのですが、今の意見も参考にしながら、今後、ちょっと様子を見守りながら、もし必要であれば、そういう方法も取り入れていけたらなと思っております。

次は、(8)「総務福祉文教常任委員会の報告について」事務局から説明願います。

井上部長 (説明内容省略)

沼田部長 (説明内容省略)

教育長

このことについて、何かご意見はございませんか。

後藤委員

スケートボードパークの設置について、日岡の方のスケートボードパークが完成しまして、半年ぐらい前から楽しそうに練習しているのを見かけるのですが、地域展開でやるというクラブにぴったりではないかと思います。異年齢の子たちがいっぱい来ていますし、小さい子から大人まで男女問わず、みんな楽しそうにやっています。

稲美町でもできたら、そういう受け皿になるような、クラブ的な中心になるような人たちは稲美町にいるのでしょうか。

中澤課長

稲美町にスケートボード協会があるのですが、今も計画というか設計段階から関わってもらっています。地域展開の話もしてみたら、やる気はあるという話があって、体育協会に入って盛り上げていきたいと伺っています。

教育長

他に何かご意見はございませんか。

ご意見がないようですので、以上で本日の議事はすべて終了いたしました。

なお、次回の定例教育委員会は9月30日(火)ですので、よろしくお願いいたします。

それでは、これで本日の会議を閉会といたします。

本日は大変お疲れ様でした。ありがとうございました。